

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2020. 5. 28

No.630

2020夏季手当交渉 収入動向

本部は、5月27日、2020夏季手当交渉 収入動向を行いました。

以下、報告します。

まず、営業部より2020年4月の営業成績を説明

(単位:百万円、千トン、%)

扱別	種別	本年実績	本年計画	前年実績	対計画		対前年		
					増減	比	増減	比	
月計	収入	コンテナ	9,492	10,287	10,124	-795	92.3%	-632	93.8%
		車扱	1,013	1,000	1,079	13	101.3%	-66	93.8%
		計	10,505	11,287	11,203	-782	93.1%	-698	93.8%
	輸送量	コンテナ	1,659	1,862	1,849	-203	89.1%	-190	89.7%
		車扱	640	620	696	20	103.2%	-56	91.9%
		計	2,298	2,482	2,545	-184	92.6%	-247	90.3%

1. 収入動向 【対計画△782百万円(93.1%)】

コンテナは、新型コロナウイルス感染症による需要低迷の影響もあり、食料工業品、紙・パルプ、化学工業品、化学薬品、自動車部品、家電・情報機器、エコ関連物資などの品目で計画を大きく下回った。食料工業品は現地生産化が進む清涼飲料水の荷動きが低調なほか、外食産業向けビールの輸送が減となった。一方、農産品・青果物については北海道からの玉葱の発送が順調に推移し計画を上回った。また、積合せ貨物は、在宅需要もあり堅調に推移した。その結果、コンテナ全体では、計画比92.3%となった。

車扱は、外出自粛の影響もあり揮発油の需要が減少したが、セメントの輸送が堅調に推移し、車扱全体では計画比101.3%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比93.1%となった。

<コンテナ>

新型コロナウイルス感染症による需要低迷の影響も受け、各品目で計画を大きく下回った。食料工業品は清涼飲料水の現地生産化および外食産業向けのビールの需要減により対計画△147百万円、紙・パルプは需要低迷による在庫調整により△142百万円となった。化学工業品は合

成樹脂の需要が減少したことなどから△103百万円、化学薬品は△50百万円となった。また、自動車部品は相次ぐ自動車工場の稼働停止の影響により△65百万円となった。一方、農産品・青果物は北海道産玉葱の輸送が順調な発送となったことから、対計画+50百万円と好調に推移した。その結果、コンテナの対計画は△795百万円（92,3%）となった。

<車扱>

石油は外出自粛に伴いガソリンの需要が減少したが、セメントの輸送が堅調に推移したことから、車扱全体では対計画+13百万円（101,3%）となった。

2. 輸送量動向

コンテナは、新型コロナウイルス感染症による需要低迷の影響もあり、紙・パルプ、化学工業品、化学薬品、自動車部品、家電・情報機器、エコ関連物資などの品目で前年を大きく下回った。食料工業品は現地生産化が進む清涼飲料水の荷動きが低調なほか、外食産業向けビールの輸送が減となった。一方、農産品・青果物については北海道からの玉葱の発送が順調に推移し前年を上回った。また、積合せ貨物は、在宅需要もあり堅調に推移した。その結果、コンテナ全体では、前年比89,7%となった。

車扱は、外出自粛の影響もあり石油が前年を大きく下回り、車扱全体では前年比91,9%となった。コンテナ・車扱の合計では、前年比90,3%となった。

<営業部>

組合・5月24日付け営業日報で、年間累計輸送実績全国計の収入を見ると、対計画89,6%と大きく落ち込んでいるが、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響しているという理解でよいか。

会社・その通りである。

組合・2020年4月の営業成績は、対計画93,1%△7億8200万円だったが、5月は更に悪化しそうな気配で、6月はそれよりも更に悪化するのでは？と危惧しているが、営業部の見解はどうか。

会社・年初から徐々に広がる新型コロナウイルスによる影響が、今年度に入り拡大している。国内の感染者数は減少傾向に転じたものの、自粛により消費者・企業マインドが冷え込み、足元の荷動きは一段と鈍化が見込まれることから、当分の間、輸送量の前年割れが続く可能性が高く、顧客の動向をいっそう注視する必要があると考えている。

組合・ピンチをチャンスにという言葉があるが、思い切った施策等はあるのか。

会社・こうした状況をチャンスにつなげるために、今年度に事業計画で掲げた①「お客様とのダイレクトな勉強会を通じた提案営業」について、オンライン活用により頻度を高めるとともに、案件誘致のスピードアップを図る。また、②「列車（商品）の積載率向上を目的とした戦略的プライシング」により、全国の第一線で活躍する営業マンが使いやすいツール

を策定し、提案力の向上を図る。さらに、③「一般汎用トラックで利用可能なエキナカによる積替施設の拡充」を進め、グループ会社との協業体制拡充のもと、収入拡大を推進する。これらの3本の柱を主軸に、SDGSやESG経営などに注力する大手企業や、近年拡大傾向にあり、コロナ禍でますます増大するEC事業者へのアプローチの深度化を図っていく。

組合・東京レールゲートWESTが2020年2月に竣工したが、順調に推移しているのか。新型コロナウイルスの影響で鈍化しているのか。

会社・現在空いている2区画（1フロア）を営業中である。新規顧客、館内増床の両面で営業をおこなっている。緊急事態宣言、オリンピック延期により、荷主ならびに物流業界における倉庫ニーズも急変しており、これに対応すべくさまざまなネットワークを活用して営業活動を行っている。

組合・東京レールゲートEAST竣工予定は、2022年8月だが、新型コロナウイルスの影響で、竣工予定が延びる可能性もあるのか。

会社・建設予定地においてコンテナ複合施設の撤去工事をおこなっている。2022年8月の竣工へ向けての工程を順調に進めている。

組合・関連事業も大きな影響を受けていると思うが、マンション販売価格を見直すなどの動きはあるのか。

会社・現段階では、価格見直しの検討は行っていない。

組合・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日本全体が沈んでおり、先行きが見えない不安に陥っているが、ピンチをチャンスに変え鋭意頑張ってもらいたい。私達は安全安定輸送に努めていく。

会社・了解した。

<総務部>

組合・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、JR貨物もじわじわと影響を受けているが、現場では新型コロナウイルス感染という不安と向き合いながら、列車を止めることなく、安全安定輸送に日々努めている。会社の状況が厳しいのは理解するが、2020年3月期の成績は、当初の計画には届かなかったものの、2019年3月期の成績からは大幅な増収増益となっている。あの成績をみれば、組合員の期待は必然と大きくなる。次回交渉は「会社の考え」だが、この頑張りに対する誠意を、数値として示して頂きたい。

会社・新型コロナウイルスの感染拡大防止については、支社、現場と情報共有をしっかりと行い、労使が一体となって引き続き取り組みたい。貴組合の主張を受け止め、引き続き社内で議論していく。

組合・組合員の期待を裏切ることのないようお願いしたい。

以上